

表現力

## 文章表現(物語創作・小論文)

### ●対象学科

写真／映像／デザイン／インタラクティブメディア／アニメーション／ゲーム\*／マンガ

\*ゲーム学科は留学生入試のみ

### ●対象入試区分

表現力入試／留学生入試／一般選抜II期B方式

### ●試験の内容

以下の2つの中から1つを選択し表現する。

- ①物語創作:配付された写真と設問にしたがって、物語を創作する(800字以内)。
- ②小論文:与えられたテーマについて論文を書く(800字以内)。

試験時間:90分

持参用具:筆記用具(鉛筆・消しゴムなど)

### ●出題意図

- ①物語創作:制作においては、創造力・発想力とともに言葉で相手に気持ちを伝えるコミュニケーションの力が必要です。与えられたテーマに対する、あなたのユニークな視点、鋭い感性を物語という形式を通して表現する試験です。
- ②小論文:自分の考えを論理的に構成し、言語化することは、表現者にとって重要なプロセスです。与えられた設問を理解する力、および文章表現によるコミュニケーション能力を小論文形式で評価します。

### ●評価のポイント

- ①物語創作:感性・表現力(設問に対する洞察力、理解力/物語の展開力/発想のユニークさ、鋭さ)/技術・構成力(文意の明確さ/語彙の豊かさ/適切な文章構成力(起承転結など))
- ②小論文:テーマを論理的に解釈する力があること/文章全体の構成がしっかりしていること/文意が明確であり、文章表現によるコミュニケーション能力が認められること/文法的間違いや誤字脱字がないこと

### ●アドバイス

- ①物語創作:写真作品に限らず、例えば俳句や新聞・雑誌の見出しなどの短い表現だけを頼りに、そこを出発点にその背後にどのような表現世界が広がっているのか、ということを経験から想像してみるように心がけてみると良いでしょう。
- ②小論文:読むこと/芸術や時事問題を論じた評論や新聞・雑誌記事を読む習慣をつけましょう。書くこと/評論や記事の主張に対して、自分の考えを明らかにし、文章化する訓練をしましょう。

### 問題内容

#### ▶①物語創作 例題(2020年度)

与えられた写真を見て、物語を創作しなさい。

- ・右の写真を物語の挿し絵として使うなら、どのような物語を想定するでしょうか。
- ・800字以内の物語を創作し、『文章表現(物語創作)解答用紙』に縦書きで記述しなさい。



ポール・ストランド  
「On My Doorstep」より  
White Horse,  
Ranchos de Taos, New Mexico  
制作:1932年  
東京工芸大学 写大ギャラリー  
収蔵作品より

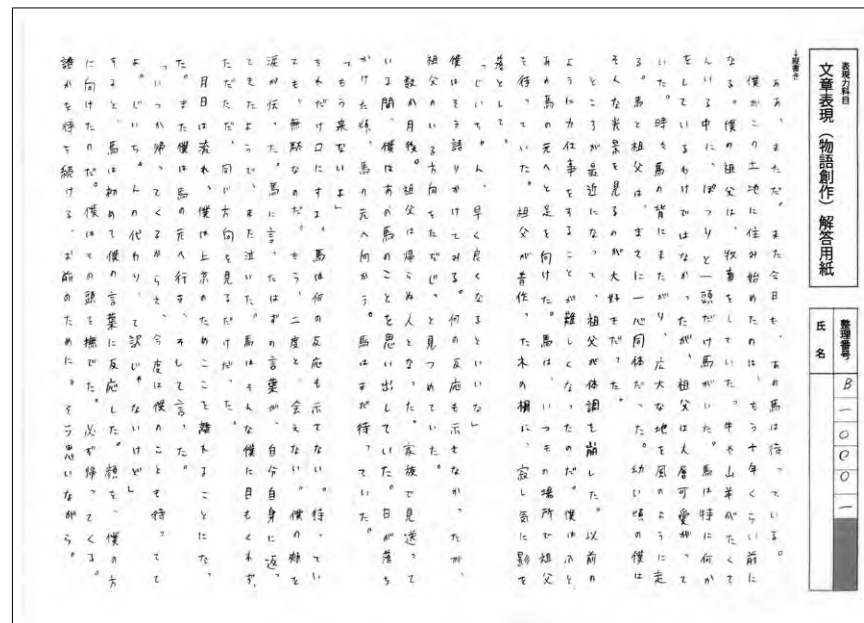
#### ▶②小論文 例題(2020年度)

右ページにある小論文の例題の文章を読み、次のこと二点について答えなさい。

- ・いわゆる「文系」と「理系」が相手の領域を知る必要があるのはなぜなのか。  
筆者の主張を踏まえた上で、具体例を挙げて説明しなさい。
- ・将来目指す分野で活動するために、大学で何を学ぶことが必要だろうか。あなたの考えを述べなさい。

\*解答は800字以内で、『文章表現(小論文)解答用紙』に横書きで記述しなさい。

### 参考作品 文章表現:①物語創作(2020年度)



主人公が遠目に白馬のいることを認めつつ近づくとところから物語がはじまり、目の前の白馬に別れを告げて立ち去るところで物語が終るなど、各シーンを対比的に扱うことで、祖父と白馬と主人公という三者の関わりの変化を巧みに表現できています。また、物語全体からは、風の吹き抜ける広大な牧場の空気を感じることができ、与えられた写真でなくては生まれえない物語となっている点でも高く評価できます。

### 参考作品 文章表現:②小論文(2020年度)



#### ②小論文 例題

現代社会は、たくさんの要素が複雑に絡まり合い、さまざまな問題がおこっています。それらの複雑な課題に向き合っていくためには、1つの視点にとらわれるのではなく、多様な発想、多様な知識が求められます。「私は文系だから数学なんて知らなくていい」「僕はコンピュータ技術の仕事をするから歴史を学ぶ必要はない」……、などということはありません。

(中略)

また、学校の○×式のテストでは、「正解は1つ」ということが当たり前かもしれませんが、広い世の中では、必ずしも「正解」が1つだけの問題ばかりとは限りません。一人一人の発想や考えのなかにそれぞれの答えがあります。これからの社会で大切なのは、どこかにある「正解」を当てることではなく、それぞれの考え方やそれぞれの状況に応じた答えを出し合いながら、複雑な課題に対して、みんなで力を合わせてより良い「正解(解決策)」をみつけていくことなのです。

(芳沢光雄『リベラルアーツの学び——理系思考のすすめ』(岩波書店、2018)

文章の前半で展開する三原色の比喩がユニークであり、やや技巧に走っている危うさもありますが、読み手の興味に訴えかけるという意味では成功しています。それに対して、後半の論述に具体性が欠けている点と、結論の凡庸さは評価を下げざるを得ない部分です。